

事業報告書

自 令和 6 年 4 月 1 日

至 令和 7 年 3 月 31 日

公益財団法人 和敬塾

1. 事業の概要

本年度におきましても、建塾の趣意に則り、その目的を達成するために「公益財団法人和敬塾 定款」第4条に基づき、各事業を行いました。これまで培って来た良き和敬塾の精神文化を継承しつつ、新しい時代に受け入れられる「共同生活を通した人間形成の場」を作り、他の大学生寮や宿舎との棲み分けを進めることにより、広く社会に和敬塾の存在を知らしめ、多くの塾生を迎え入れるとともに、前途有為な青年を輩出すべく、役職員一同、下記の事業に取り組みました。

次に、実施しました事業の活動の概況等を項目別にご報告致します。

(1) 学生寮並びに研修施設・体育施設・生活施設の運営（1号事業）

①共同生活の場である各施設的良好なる状態維持の為の改修工事等

- * 旧南寮屋上防水工事を実施した。
- * 空調設備、電気設備、エレベーター、給排水ポンプ、ボイラー、消防設備、特殊建物等の各種保守点検を行なった。
- * 備品などの修理並びに取り換え工事を行なった。
- * 創立70周年事業の一環として食堂のリニューアル工事を実施した。
- * 創立70周年事業の一環として、大講堂のグランドピアノの全面オーバーホールを実施した。実施に際しては塾友の谷口善志郎様（S36 南）からのご協力をいただいた。
- * 創立70周年事業の一環としてグラウンド・テニスコートの整備を実施した。
- * 創立70周年事業の一環として樹木の大規模剪定及び伐採を行なった。

②現有施設の保守並びに有効利用

- * ①項の各種工事などを行うと共に、主として和敬塾本館を収益事業として外部への貸出を行った。

③各寮の特徴、特色を活かす為の諸施設の活用

- * 各寮のイベント等は、塾生と相談のうえ内容を検討し実施した。

(2) 入寮学生の共同生活による修養・研鑽への援助（2号事業）

①入塾式、塾祭、体育祭、予餞会、シンポジウム、日本伝統歳事の実施

- * 新入生受入れ行事を含む入塾式、塾祭、各寮対抗競技の体育祭、予餞会の四大大行事については、ほぼ新型コロナウイルス流行前と同じ形式に戻して実施した。
- * 塾祭午後に開催していた「3年生劇」は、令和5年度より全学年参加の形式に変更し、予餞会午後に「和敬塾演劇祭」として12月8日に開催した。

- ②新入塾生に対する和敬塾設立理念並びに生活規範のオリエンテーション
- *生活規範への理解として、3月31日にオリエンテーションを行った。
- ③各寮に於ける教養活動・イベント並びに既存の教養講座の開催
- *入塾式の一環として教養講座紹介フェアを開催し、在塾生が中心となって模範演技等を行い各教養講座へ新入塾生の勧誘に努めた。
- ④各寮塾生委員会若しくは班が主催する行事の開催
- *新型コロナ流行後さまざまな行事のあり方が変わったため、寮事務所と相談の上、寮生の自主性と尊重しつつ開催した。
- ⑤一年生面談及び年末一・二・三年生継続面接の実施と助言並びにその発展的活用
- *6月～7月にかけての新入塾生面談、12月～1月にかけての1年生、2年生、3年生との面談を寮長、副寮長が個別に面談し、それぞれの生活実態について話し合い、より人間的な成長を促した。
- ⑥寮長及び副寮長による日常生活を通した寮生の人間形成
- *各寮委員会の会議、各寮総会への参加並びに日常生活での様々な場面をとらえて行なった。
- ⑦塾友、外部学生との交流活動並びに研修会の開催による寮生の視野の醸成と拡大
- *7月3日～4日にかけて、中華民国大学生訪日研修団と当塾塾生との交流合宿が和敬塾本館にて行なわれ、塾内見学、茶道体験、歓迎夕食会、討論会などを通して文化交流を行なった。
- ⑧塾友との各種情報交換並びに講演会等の共同企画・開催による寮生の卒塾後の準備
- *和敬塾卒塾生のOB会である塾友会との連携を深めるため緊密な情報交換を行うとともに、講演会を含む「ホームカミング大会」等への協力を行なった。
- ⑨日本人学生と留学生との交流による相互理解の促進と国際性の醸成
- *塾主催行事並びに各寮委員会行事、各寮の班行事への留学生の参加を通して、相互理解を深めた。
- ⑩所轄官庁の協力による防災意識並びに安全管理の啓蒙
- *必要に応じて大塚警察署並びに小石川消防署、小石川保健所等から助言を受け、防災体制の確立に努めた。
 - *防災訓練を6月2日に、塾生・職員を交えて開催した。
 - *防災倉庫、備蓄食糧庫、災害時用諸機材の点検などを定期的に行なっている。
- ⑪地域社会との交流を目指した近隣文化活動等の実施
- *塾生の地域社会に対する奉仕の実践の場として、地域の美化活動等を行なった。
- ⑫「共同体研究プロジェクト」を実施し、発達心理学の専門家である和敬塾OBの協力を得て、和敬塾共同体を学術的（発達共同体学）に探究するとともに、班活動を中心に、塾生個人、ならびに班、寮、それぞれの共同体の成長をはかり、塾生の日常生活の充実をさせる。

* 塾生に対するインタビューをもとに合宿を行い「令和 6 年度発達共同体学プロジェクトレポート」としてまとめる事ができた。今期のテーマは「“共同生活”とは」・

「“成長（人間形成）”とは」であり、和敬塾は「“他人の集まり”だけれども“他人とは思えない関係”ができる場」（レガシィ）とまとめられた。議論の過程でその様な和敬生活になる為の諸要因がいくつか指摘された。

⑬ 広尾学園小石川中学・高等学校、学校法人創志学園、栄東中学・高等学校との包括的連携協定を基に、生徒並びに学生と寮生との教育交流を実施し、人材育成に寄与させる。

* 和敬塾諸施設の活用等、逐次協議のうえ進めた。

(3) 講演会・講座・討論会等の開催（3号事業）

① 入塾式、塾祭、予餞会での記念講演

* 各行事においてほぼ新型コロナ流行前の形式に戻し、後述の通り各界の有識者をお招きして開催した。

② 役職員並びに講師と塾生との懇談会並びに懇親会

* 講演会では、質疑応答の時間や講師との対話をする場を設けた。

③ 各寮塾生主催による講演会、シンポジウム等の開催

* 北寮生を中心に 11 月 20 日、ジョージア全権大使・塾友のティムラズ・レジャバ大使と、レヴァン・ゴルガゼ様（ジョージア文化スポーツアドバイザー、元大関栃ノ心）をお招きし、日本人学生、留学生を交えた懇談会を開催した。

④ ホームページ上での講演会の公開・発信

別冊「和敬」による講演記録の発行として、歴史学者・樺山紘一先生による塾祭記念講演「小さな国の大きな実りーアルメニア・エストニア・台湾から」を小冊子として発行した。

⑤ 在塾生の為の企業説明会

* 塾友会主催の企業説明会をサポートした。

⑥ 班会議並びに寮内討論会の開催

* 各寮において、塾生委員会を開催し、班会議も随時行った。

(4) 奨学金の貸与（4号事業）

① 計 11 名に貸与した。

(5) 東京都指定有形文化財「旧細川侯爵邸」の保存並びに活用（5号事業）

① 本館文化財指定に基づく一般公開

* 概ね各月 2 回程度を目処とした定期公開等の自主公開並びに東京都主催による文化財ウィークにおいて一般公開を行なった。参加者は約 366 名であった。

② 塾生のための文化事業の場として活用

* 中華民国大学生訪日研修団と塾生との交流の場として活用した。

* 茶道部の会場として活用した。

(6) その他、第4条の目的を達成するために必要な事業（6号事業）

①塾ホームページ、各寮ブログ等による継続的情報発信による募集活動

* 情報発信力を高めるため、既存のホームページのほか、和敬塾公式 FaceBook、インスタグラム、X（旧 twitter）にて、随時イベントや、塾生の日々の生活を紹介した。

* 早稲田大学合格者に配布される冊子「学生寮のご案内」に大学提携寮として和敬塾の案内が掲載された。その他、在寮が2年間である早稲田大学直営寮の退寮者に和敬塾の案内を配布、また、留学生短期プログラムの宿舎として和敬塾を紹介等、早稲田大学との関係が深まった。

* 「学生会館ほっとステーション」「学生寮ガイド」等の学生寮情報サイトに掲載した。

* 東大生協パンフレットに広告を掲載した。

* 明大サポート「お部屋探し NAVI」に広告を掲載した。

* 不動産情報サイト「e-部屋探し」「学校から探す賃貸物件」に登録した。

* 東大生協主催の「住まい相談会」と明大サポート主催の「お部屋探し相談会」に出展した。

②塾生出身校、塾生父兄並びに卒塾生との関係強化による募集活動

* 塾生及び塾友に同行してもらい塾生出身校を訪問し、進路指導の先生等に和敬塾の紹介と入塾案内を行った。

* 塾友会支部との交流を深め、募集活動の支援を得た。

* 各寮の職員が塾生の保護者と関係性を深め、その結果、保護者による新入塾生の紹介が増えた。

③「和敬塾メールマガジン」をご父母、和敬塾 OB、教育関係者、マスコミ等に配信し、和敬塾の理解の輪を広げる。

* 佐藤専務より、塾生の SNS を通じて後輩や同級生への呼びかけを依頼した。

④新規収益事業の開発

* 種々の新規プロジェクトと共に鋭意研究中である。

⑤70 周年記念事業

* 70 周年記念事業として食堂のリニューアル工事、大規模な樹木剪定、大講堂のグランドピアノのオーバーホール、グラウンド・テニスコートの整備を実施した。

* 70 周年記念事業として“新日本建設の若人を養成せん” 和敬塾 塾生に向けた 13 名の講演録 I というタイトルで講演録を発行した。演者は元和敬塾理事長前川喜作をはじめとした計 13 名の方を掲載している。

(7)講演会、シンポジウム、セミナー、文化活動

年 月 日			
令和6年 4.7	入塾式	講演	演題：「国際情勢をどう見るか」 講師：前駐米特命全権大使・塾友 富田浩司
令和6年 5.14	塾祭	講演	演題：「小さな国の大きな実り」 講師：渋沢記念財団理事長・東京大学名誉教授 樺山紘一
令和6年 12.8	予餞会	講演	演題：「人生は剣と壁の間に立つ」 講師：大阪キリスト教短大客員教授、元週刊文春/月刊文芸春秋編集長・塾友木俣正剛

(8)教養講座

一流講師の直接指導を受けて、合宿や会食も取り入れ、お互いに切磋琢磨をはかっている。

実施した講座と講師は下記の通り。

(講 座 名)	(講 師)	(講 座 名)	(講 師)
茶 道	江川 宗京	書 道	岡本 光平
空 手 道	東 貞成	居 合 道	堤 壽彦
中国古典輪読会	信夫 息游	絵 画 研 究 会	上葛 明広
直 心 影 流 法 定	〃	坐 禅	未定 ※高石先生引退
剣 道	塚本 博之	グレートブックス研究会	犬塚 潤一郎
柔 道	山田 利彦	英 会 話 教 室	Malcolm MacNeil
棋 道	箕輪 光博		

(9)入塾選考

入塾選考は、入塾願書による選考の後、塾設立の趣旨、塾生活の内容を説明し、理解させた上で面接または書類選考を行い、入塾を決定している。令和 6 年度の新入塾生は日本人新入生 62 名（春：新一年 55 名、新三年 3 名、院生 2 名、秋：2 年 1 名、3 年 1 名）、日本人再入塾 1 名、留学生 86 名の計 149 名であった。

尚、令和 5 年度の新入塾生は日本人新入生 54 名（春：新一年 49 名、新二年 2 名、新三年 1 名、院生 1 名、秋：1 年 1 名）、日本人再入塾 4 名、留学生 112 名の計 170 名であった。

(10)留学生に関して

令和 6 年度は、147 名の留学生が在籍し、日本人塾生との共同生活並びに行事や教養講座の参加・活動を通して、日本文化への理解を深めている。

尚、令和 5 年度は 169 名の留学生が在籍した（3～4 ヶ月程度の短期生も含む）

大学別塾生数一覧表

No	大 学	一年生	二年生	三年生	四年生	OB・大学院等	留学生	合 計
1	早稲田大学	25	22	12	22	15	97	193
2	上智大学	1	1	2	1	0	24	29
3	東京大学	4	8	5	5	4	1	27
4	学習院大学	3	1	0	1	0	10	15
5	明治大学	5	3	2	3	2	0	15
6	東京国際大学	0	0	0	0	0	9	9
7	中央大学	2	3	1	1	1	0	8
8	日本大学	2	1	2	2	0	0	7
9	東京理科大学	3	1	0	0	0	0	4
10	東洋大学	1	1	1	1	0	0	4
11	法政大学	1	1	2	0	0	0	4
12	青山学院大学	1	0	1	0	1	0	3
13	慶應義塾大学	0	0	0	1	0	2	3
14	電気通信大学	2	0	1	0	0	0	3
15	立教大学	0	1	1	1	0	0	3
16	拓殖大学	1	1	0	0	0	0	2
17	東京科学大学	0	0	0	0	2	0	2
18	東京歯科大学	0	0	1	0	1	0	2
19	國學院大学	1	0	0	0	0	0	1
20	専修大学	0	0	1	0	0	0	1
21	駒澤大学	1	0	0	0	0	0	1
22	順天堂大学	0	1	0	0	0	0	1
23	芝浦工業大学	0	0	0	0	0	1	1
24	大正大学	0	1	0	0	0	0	1
25	テンプル大学	0	0	0	0	0	1	1
26	東京医科大学	0	0	0	0	1	0	1
27	東京経済大学	0	0	1	0	0	0	1
28	東京工芸大学	0	0	0	1	0	0	1
29	東京慈恵会医科大学	0	0	0	1	0	0	1
30	日本歯科大学	1	0	0	0	0	0	1
31	日本獣医生命科学大学	1	0	0	0	0	0	1
32	武蔵野大学	0	0	1	0	0	0	1
33	明治学院大学	0	0	0	1	0	0	1
34	横浜市立大学	0	0	1	0	0	0	1
35	その他	0	0	0	0	0	2	2
合計		55	46	36	41	26	147	351
昨年度		50	40	40	50	28	169	377

2. 処務の概要

役員等に関する事項

(令和7年3月31日現在)

役 職 名	氏 名	就任年月日	担任職務	常勤・非常勤
理 事	前 川 正	H30. 6. 27	理 事 長	常 勤
〃	佐々木 良夫	R04. 6. 27	専 務 理 事	〃
〃	嘉 藤 祐 樹	〃	常 務 理 事	〃
〃	三 嶋 直 純	〃	〃	〃
〃	佐 藤 一 義	H25. 11. 1		〃
〃	前 川 正 雄	H24. 2. 1		非常勤
〃	藁 谷 友 紀	〃		〃
〃	平 沢 泉	H30. 6. 27		〃
〃	田 島 信 元	R02. 6. 27		〃
〃	前 川 正 喜	R06. 7. 10		〃
監 事	笠 原 將 敏	H24. 2. 1		非常勤
評 議 員	細 越 峻	H24. 2. 1		非常勤
〃	渡 邊 重 範	〃		〃
〃	太 田 朝 生	H27. 6. 23		〃
〃	福 原 毅	〃		〃
〃	栃 木 弘 義	R03. 6. 4		〃
〃	岩 木 勅 一	〃		〃
〃	柳 川 邦 衛	R06. 5. 2		〃
〃	跡 見 裕	〃		〃
〃	石 山 卓 磨	〃		〃

3. 役員会等に関する事項

(1)理事会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
令和 06.6.6	1.公益財団法人和敬塾令和 5 年度事業報告の承認に関する件	原案どおり可決
	2.公益財団法人和敬塾令和 5 年度決算報告の承認に関する件	原案どおり可決
	3.任期满了に伴う次期理事候補者の承認に関する件	原案どおり可決
	4.新任理事候補者選任に関する件	原案どおり可決
	5.「公益財団法人和敬塾 定款」変更案の承認に関する件	原案どおり可決
	6.定時評議員会招集に関する件	原案どおり可決
	7.職務実行状況報告	報告事項
令和 07.3.12	1.公益財団法人和敬塾令和 7 年度事業計画の承認に関する件	原案どおり可決
	2.公益財団法人和敬塾令和 7 年度収支予算の承認に関する件	原案どおり可決
	3.令和 7 年度資金調達及び設備投資の見込みについての承認に関する件	原案どおり可決
	4.長期修繕計画（令和 7 年度版）の承認に関する件	原案どおり可決
	5.資産取得計画（令和 7 年度版）の承認に関する件	原案どおり可決
	6.任期满了に伴う次期理事、評議員候補者の推薦に関する件	原案どおり可決
	7.職務執行状況報告	報告事項
令和 07.3.28	代表理事（専務理事）選定の件	原案どおり可決

(2)評議員会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
令和 06.6.24	1.公益財団法人和敬塾令和 5 年度事業報告に関する件	報告事項
	2.公益財団法人和敬塾令和 5 年度決算報告の承認に関する件	原案どおり可決
	3.任期满了に伴う次期理事選任に関する件	原案どおり可決
	4.新任理事候補者選任に関する件	否決
	5.「公益財団法人和敬塾 定款」変更の承認に関する件	原案どおり可決
	6.職務実行状況報告	報告事項
令和 06.7.10	新任理事選任に関する件	原案どおり可決

4. 附属明細書

令和 6 年度事業報告には、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第 34 条第 3 項にて規定される「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、附属明細書は作成しない。